

Vol. 70 No. 8・9 合併号 (2026-27)

2026 (令和 8) 年 10 月 9 日発行

2026-27 年度 第 2650 地区 基本方針

新しい扉を開く

— 成長と持続のバランスを
ととのえる一年に —

〔事務局〕

橿原市久米町 926 奈良県業会館内

TEL : 0744-25-3986

FAX : 0744-25-3985

E-mail: krc@jeans.ocn.ne.jp

〔例会日〕

金曜日 12 時 30 分 ~ 13 時 30 分

橿原市久米町 934 橿原神宮 養正殿

TEL : 0744-26-2789 (代表)

感謝と思いやり

2026-27 年度 橿原ロータリークラブ クラブテーマ

10月は、「経済と地域社会の発展月間」

(Economic and Community Development Month)、

「米山月間」(Yoneyama Month)です。

第 3268 回例会報告書

2026 (令和 8) 年 9 月 11 日

— ガバナー公式訪問 —

【あすか RC・やまとまほろば RC との合同】

ホスト：橿原 RC

司会

R.song

ソング・リーダー

ピアノ伴奏

副 SAA・杉垣新平会員

君が代・奉仕の理想

尾田肇睦会員

中垣内多美会員



ゲ ス ト

国際ロータリー第 2650 地区

ガバナー 平野洋一様

ガバナー補佐 米田常彦様

幹事長 清川卓二様

あすか RC 米山奨学生 グエン ティ トウ クエンさん

やまとまほろば RC 米山奨学生 メーティロンさん

橿原ローターアクトクラブ 幹事 岸本 翼さん

国際ロータリー第 2750 地区

東京バリアフリーマインド RC 登川直穂子様

東京バリアフリーマインド RC 夏井淳一様

出 席 報 告

会員 50 名

(9/11)

出席者 37 名、MU0 名、出席率 80.43%

(8/28 補正)

" 32 名、 " 5 名、 " 80.43%

ニ コ ニ コ 箱

◎自祝金……………国際ロータリー第 2650 地区

ガバナー

平野洋一様

ガバナー補佐

米田常彦様

幹事長

清川卓二様

◎3 クラブ合同平野ガバナー公式訪問ホスト、お世話になります。よろしくお願い致します。

……………あすか RC 会長 前垣信也様

◎平野ガバナーご一行様、本日は「飛鳥・藤原の宮都」世界文化遺産の里によろこそ！歓迎します。橿原クラブさん、本日はよろしくお願い致します。

……………やまとまほろば RC 会長 郡山 尚様

◎今年度第 1 回甘樞会ゴルフコンペで優勝致しました。メンバーに恵まれました。ありがとうございます。

……………吉川弘晃会員

◎入会お祝い 西尾兆司会員 (6 年)

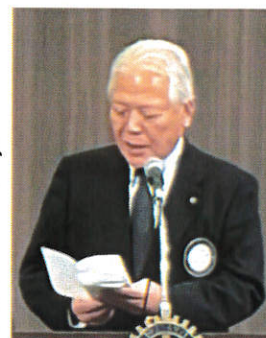
会 長 挨 拶

<ホストクラブ：

橿原 RC 中谷昌紀会長>

平野洋一ガバナーをはじめ、地区役員の皆様、本日はご多用の中、あすか RC、やまとまほろば RC、橿原 RC の合同公式訪問へお越し頂き、誠にありがとうございます。会員一同、心より歓迎申し上げます。

まず初めに、先月、福井県をはじめ北陸地方を襲った記録的な豪雨により、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。河川の氾濫や浸水、土砂災害などにより、多くの方々が不安な日々を過ごされたことと推察致します。一日も早く平穏な生活を取り戻され、被災地域の復旧・復興が進みますことを、3 つの RC を代表して心よりお祈り申し上げます。



さて、私たち樫原 RC は、本年度、創立 70 周年という大きな節目を迎えます。今日まで活動を続けることができたのは、クラブの歴史を築いてこられた諸先輩方をはじめ、地域の皆様、会員のご家族や職場など、多くの方々のご理解とご支援があつてこそです。その思いから、本年度のクラブテーマを「感謝と思いやり」と致しました。70 年の歩みへの感謝を、過去を振り返るだけで終わらせるのではなく、地域社会への奉仕と、次の世代への責任という形で表していきたいと考えております。「世のため、人のために良いことを」という精神のもと、会員一人ひとりが「自分だからこそできることがある」と考え、主体的に一步を踏み出す。そして、奉仕活動を通じて会員同士の親睦と絆を深めるとともに、若い世代にも「超我の奉仕」の精神をつないでいく。そのような一年を目指して参ります。

こうした当クラブの方向性は、平野ガバナーが本年度の地区基本方針として掲げられた、『新しい扉を開く』—成長と持続のバランスをととのえる一年に—というお考えに深く繋がるものと感じております。70 年にわたって受け継がれてきた伝統や奉仕の精神を大切にすることが「持続」であるならば、時代や地域社会の変化に向き合い、新しい発想と若い力を取り入れていくことが「成長」であります。その両方を大切にしながら、これまでの歴史の上に新しい一步を重ねていくことが、私たち樫原 RC の「新しい扉を開く」ことではないかと考えております。

そして本年、私たちの地域にとって、まさに新しい扉が開かれる大きな出来事がありました。「飛鳥・藤原の宮都」が、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。19 の構成遺産がある地域は、この 3 クラブが活動エリアとする地域です。長い年月にわたり地域の皆様が守り、受け継いでこられた歴史と文化が、人類共通の宝として世界に認められたことは、私たちにとって大きな誇りであります。同時に、その価値を守り、次の世代へ伝えていく新たな責任の始まりでもあります。

ここに集った 3 つの RC も、地域の一員として、この歴史的な機会を地域のさらなる発展と活性化に繋げていかなければなりません。これまでの歴史への「感謝」を胸に、地域と人への「思いやり」を行動に変え、世界遺産とともに歩む樫原の新しい未来への扉を、会員の皆様と力を合わせて開いて参りたいと思います。

本日の公式訪問を通じて、平野ガバナーから貴重なお指導とご助言を賜り、今後のクラブ運営と奉仕活動に生かして参りたいと存じます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

幹 事 報 告

△例会変更ほか（詳細は掲示板にて）

・奈良 RC

10 月 22 日（木）休会 ※ビジター受付なし。

・桜井 RC

①10 月 13 日（火）移動例会（韓国）

②10 月 20 日（火）休会

③10 月 27 日（火）移動例会（やまと西和 RC と合同）

※いずれもビジター受付なし。

「ガバナーアドレス」

— Governor's Address —

国際ロータリー第 2650 地区

平野洋一ガバナー



皆さんこんにちは。本年度 2650 地区のガバナーを拝命しております、福井 RC の平野でございます。どうぞ一年間よろしくお願い致します。この地区には 4250 人の会員と 96 のクラブがありますが、今日で 38 クラブ終わりました。7 月から 9 月の終わり、約 2 ヶ月半でだいたい 3 分の 1 超えたぐらいで、まだ 3 分の 2 ほど残っているんですが、2650 地区のガバナーって何日間ぐらい忙しいと思いますか。福井のガバナーが、例えば福井からこちらに来るのに、簡単に来れないんです。京都の北の方もそうですが、前泊制度もあり、あと半年間、365 日の 200 日間がロータリーとして拘束されるわけです。大変な状況なんですけども、僕は実は今現在では 4 つの会社の代表取締役と福井商工会議所の副会頭や福井経済同友会の副代表など公職が 11 あり、会社 4 つ公職 11 で、ガバナーどうやって受けるんだというところで、その経緯についてはまた後ほどお話ししたいと思います。

少し自己紹介をさせていただきますと、僕は福井 RC の会員ですが、プライベートは東京です。東京の在住で、仕事が福井を中心とした北陸三県で展開してまして、今はロータリーでほとんど京都にいますという状況です。東京の家には 1 か月のうちに 1 泊二日、福井に週一、あとは京都という感じです。ほとんど京都にいて、これが一年間続きます。もともと僕は福井の出身ですが、平野家はもともと越前の松平藩に仕える代々武家の家系でした。ずっと松平藩に仕えていましたが、時代が江戸から明治になった時、武士というのは仕事が無くなってしまいました。身分制度だけは士族という訳の分からない身分を与えられて、じゃあ士族は何をするかという仕事はないんです。うちのひいおじいさんも事実上そこで失業してしまって、失業して何をしたかという、政治活動にハマってしまいまして、自分が政治家になるために頑張るのではなく、人が政治活動をするのを支持してずっと全国をついてまわったんです。全く無職なのに自分のお金を使いながら一生懸命政治家を応援したら、平野家は破産してしまいました。そこで 1 回平野家は閉ざされるわけです。ひいおじいさんの息子であるおじいさんは奨学金で名古屋市立大学に行って、その後に東京の国立衛生研究所という研究機関で勤めました。それから、当時戦前で台湾がまだ日本だった時、国立衛生研究所から台湾に派遣されることになりました。その当時の台湾は、日本が支配していた日本の植民地だったので、日本人は一等国民という台湾人より上の国民という扱いだった

んです。おじいさんは台湾が気に入って、国立衛生研究所を辞めて「平野薬局」を作りました。今から 97 年前の昭和 4 年の話です。おじいさんは一等国民として台湾の中で優遇されていたので、薬局を開いて何をやったのかというと、その当時台湾にいた日本軍に一手に薬品を納める仕事を任されたんです。一等国民という地位を使っているということがあったからこそ、そういうことができたんだと思いますが、だいぶ手広く大きくやっていたようです。その頃、台湾はまだ日本の植民地で制度も日本と同じだから、日本に丁稚制度というのがありました。あまり恵まれない農家などの子供を自分のお店で引き取って、学校を出してあげながらお店の手伝いをしてもらい、学校を出た後、自分の家やお店で働いてもらうという丁稚制度があり、ずっと江戸時代から戦前にそういうことをやっていました。うちの小さなお店にもたくさんの丁稚さんがいました。いろいろな形でうちに集まってきた子供達を、おじいさんはずっと面倒を見て学校を出してあげて職人として雇っていました。そうしているうちに日本は戦争に負けてしまいました。じゃあ台湾で日本が戦争に負けて、日本人はどうなるんだろう。おじいさんは台湾の日本軍に薬品を納めていた戦争犯罪人として逮捕されることになりました。いきなり三等国民という扱いになったんです。日本人は戦争に負けた途端に台湾人より下の三等国民という扱いになったので、そういうことになってしまったわけですが、その時におじいさんが戦争犯罪人になるという重い罪で刑務所に入っていたら、僕はここに存在しないわけで、なぜ僕がここに生を得たか。それはおじいさんを助けてくれた人がいたからです。リョウブンツウさんとサイセイカさんという 2 人の台湾人がいました。この 2 人は小さい時からうちで働いていた丁稚さんで、平野薬局の番頭さんでした。この 2 人の番頭さんはおじいさんが逮捕されるということを知って、おじいさんを密航船で日本に逃がしてくれました。日本に逃げている途中、その 2 人が台湾の憲兵に、うちの社長は今旅行に出ますと時間を稼いでくれて、おじいさんが密航船で生まれ故郷の福井に帰ったという知らせを受けた後に 2 人は自首しました。もちろん国賊として逮捕されるわけです。2 人は自分が逮捕されることを分かっているが、おじいさんを密航船で日本に逃がしてくれた。おじいさんに、小さい時から自分の子供のようにかわいがって、学校も出してもらって、最後には自分のお店で番頭までさせてもらった。そういうことが 2 人の中では、自分が逮捕されてでもおじいさんを逃がしてくれるということになったんだと思っています。よく世の中でも言いますが、困っている人を助けたり自分が良いことをしていると、本当に自分が困った時に助けてもらえる。因果応報。それを平野家は歴史から学んだわけです。おじいさんはこの 2 人が逮捕されたということを知って大変ショックを受けたんだと思いますが、2 人に電報を流して、お前達が出てきたらこの場所に行けば薬品があるからそれを 2 人で分けてこれから生活していきなさいということで、おじいさんは薬局の中にたくさんの薬があって、戦後は薬がものすごく重要だったんです。おじいさんは逮捕されるとそれが全部台湾に取り上げられてしまうので、ある場所に隠して日本に逃げてきたんです。2 人は刑務所を出た後、その薬品を売って、リョウブンツウさんはおじ

いさんがやっていた薬局をそのままやってくれました。さすがに日本名の「平野薬局」はまずいということで、台湾の名前に変えて、台湾の西門通りという東京の渋谷みたいなどのすぐ横に入ったところにあったんですが、そこを 3 年前までやってくれていました。ずっと 90 何年間。途中でリョウブンツウさんは亡くなったので息子さんが継いでくれていました。サイセイカさんもおじいさんからもらった薬で製薬会社を作っていました。今では台湾で有数の製薬会社で、4 社ぐらいのグループになっています。実は 40 年ほど前、父がお前にどうしても伝えておきたいことがあるということで、僕と弟は台北に連れて行かれました。リョウブンツウさんは亡くなっておられましたが、その時に初めて僕はリョウブンツウさんの後を継いだ息子さんにお会いしました。彼は中国語と英語しか話せない、僕は中国語が分からないので、2 人で英語でいろいろと会話していたんですが、リョウさんがうちにディナーに来てくれということで、リョウさんの自宅に招かれてディナーに行きました。すると食卓の近くに棚があって、家族の写真が飾られていました。それを見ていたらうちのおじいさんの写真がありました。僕はそれを見て思ったんです。まだリョウ家の中には、おじいさんは生きてるんだと。おそらく、リョウブンツウさんの息子さんも、リョウさんからうちのおじいさんが自分をここで育ててくれたということを聞いて、家族の写真と一緒に置いてあるおじいさんの写真を、そのまま代が変わっても残して食卓に飾ってくれていたんだと思うと、日本と台湾という離れた場所であっても、お互いを思う心、尊敬する心というのは、代が代わっても繋がっていくんだと思いました。もう一人のサイセイカさんももう亡くなっておられ、息子さんにお会いすることもなかったんですが、今年の 4 月の台北での国際大会の時に、サイセイカさんの息子さんと初めてお会いしました。なぜかということ、ちょうど 3 年前に僕の父が亡くなったんですが、おじいさんの息子である父とサイセイカさんの息子さんは、息子同士でずっと繋がっていて、ずっと手紙のやり取りをしていました。僕はそれを全く知らなかったんですが、父が亡くなった時に、父に届いていた手紙が僕のところに回ってきまして、その中にサイセイカさんの息子さんからの手紙があったんです。僕は中を見た時に、すぐにこれはサイセイカさんの息子さんだと分かりました。住所が書いてあったので僕は返事を書きました。僕はおじいさんの孫です。父は亡くなりました。ただ僕はどうしてもあなたにお会いしたいと手紙を書いて、そして使者を送ったわけでありました。向こうからも返事が来て、是非とも会いたいということでした。ただ、向こうも大きな製薬会社のグループ会社の社長で、僕もすごく忙しい会社で、なかなか行けないので、今度、台北でロータリーの国際大会があるからその時に会おうという話になりました。なぜそんな話になったかというと、サイさんの娘さんが台湾の RC の会員だったんです。台北で国際大会があるということ、今の社長である弟さんが聞いて、もし来るんだったら会おうということで、僕は台北国際大会の次の次の日に、サイさんの息子さんと娘さんとお孫さんと会いました。僕は妻と行きました。その時にもやっぱり向こうは、まずもって御礼を言われました。あなたのおじいさんがいたから私達はこんなに幸せでいられてありがとう

という話でした。もちろん僕も思いました。あなたたちがいるから、あなたたちがうちのおじいさんを助けてくれて、逃がしてくれたから、僕は今ここにいますという話をしました。人生って、当たり前のようにこの世に生まれてきたように人は思いますが、当たり前じゃないんです。本当に奇跡なんです。あの2人の台湾人がいなかったら僕は生まれなかった。皆さんもそうです。皆さんの両親が何千万組という組み合わせの中で結婚しなかったから皆さんも生まれてこなかった。すごい偶然の中で僕達は生きているわけです。そういう話を聞いてか、父はもうずっと40代の時からロータリアンでした。3年前に93歳で亡くなるまで50年以上ロータリアンで、それもただの例会ロータリアンではなく、ものすごく精力的に活動していました。ポリオワクチンの接種などで世界中まわって、ネパールに学校を建てたり、もう日本中、そこら中、世界中、ずっとロータリーの活動でまわっていたわけです。僕は小さい頃からその写真を見て、うちの親父は良いことをやっているなと思っていたんですけども、自分自身が社会奉仕とか世の中のために良いことをするといった余裕は、まだその頃はありませんでした。僕は31歳まで都会でサラリーマンをやっていましたが、父の後を継ぐために福井に帰って、その時の父の会社は社員が十数名ぐらいしかいない小さな会社だったので、とりあえず頑張って大きくしようということで、僕はずっと一生懸命仕事をしていました。自分で新しい会社をいくつも作ったりM&Aをしながら、あっという間の30年で、会社は20倍ぐらいの大きさになりましたが、もう僕は60歳を超えていたんです。僕は60歳を超えた時に、ある人の言葉を思い出しました。それは僕がロータリーに入った45歳の時、ロータリーの飲み会で僕の隣に座っていたヤマモトカズオさんという福井RCの会員の方で、福井では結構有名な方なんです。その当時、今の僕と同じぐらいの年だったと思います。ロータリーに入りたての40代の僕に彼はこう言ったんです。「平野君は死ぬなんて考えたことないの」「俺らの年になったら考えるんや」と。僕は40代だからそれがピンとこなかった。そうなんですか、ぐらいの返事だったと思います。ただ自分が60代を迎えて、なんとなくもう昔ほど元気に、健康診断の結果が出るという状況じゃなくなってくる時に、僕はその言葉を思い出すとともに、いろいろ人生を振り返って考えたわけです。自分の人生を400mのトラックで考えると、60代は最後の100mの直線距離です。最後の100mの直線距離、でも60代が最後の100mだから70代は50m、80代は30mではないんです。ゴールはどこにあるか分からないですから。もう60を過ぎたら最後のラストスパートなんです。最後の100mをどうやって自分で走り抜けるか、最初の300mをどんなに頑張って一番で走り抜けた満足のいくものでも、最後の100mを自分で満足できる走り方ができなかったらゴールテープを切る時に必ず後悔が残ると思います。最初の300mってなんとなく過ぎてしまうんです。皆さんも多分、あっという間にこの年になってしまったと思います。僕は最後の100mを自分がどう走り抜けるかということを考えるようになりました。僕はいつも自分が勉強する材料はYouTubeで、その中で一人のYouTuberに出会いました。たった22歳のシンヤ君というYouTuberです。「人生を価値あるものに」

という題名です。彼が何をやっているかという、80代の人達に街角インタビューして歩くんです。あなたの人生の後悔は何ですか、あなたが若い頃に戻れたら何がしたいですかという質問をするんです。いろいろなことを言う人がいました。もっと仕事をしてあげればよかったという人もいれば、仕事ばかりじゃなくもっと遊んであげればよかった、もっと家族を大事にすればよかった、もっと子供と会話してあげればよかった、いろいろな人がいますが、言っていることの答えは一つなんです。もっと自分らしく生きればよかった、もっと自分の思うように生きればよかったという人生の後悔です。最初の300mって自分のためだけには走れないです。家族もいる、会社も頑張らなきゃいけない、家も建てなきゃいけない、子供も大きくしなきゃいけない。自分はいつかこんなことをやろう、こんなことをやりたいと思っていたと思いますが、その頃は人生が限りあるもの、どこかで終わるものだということに気がついていなくて、ずっと先延ばしにしてしまう、いつかこんなことしたい、あんなことしたい、そしてそれが叶わずに最後に後悔する。そういうことを考えると、この最後の100mの直線距離は、最初の300mの、できなかった後悔をなくすことです。最初の300mでいろいろなことをやりたいと思ったと思います。でもできなかったことをこの最後の100mでやらなかったら一生できないです。それはなぜか。僕達が与えられた人生は400m一周だけなんです。走り終わった後にもう1回スタート地点に戻ってさあもう1回なんてテレビゲームみたいなことはできません。だからこの残った最後の100mが最後なんです。ここで皆さんが何をするか。そしてこの100m、大概の人達は、もう俺は年だからと消化試合にしてしまいます。ロータリーを辞める動機に年をとったから辞めるという人がすごく多いですが、もったいない。せっかくこんなにたくさんの仲間がいて、自分が世の中のためにやろうと思えば、自分が世の中に必要とされる人間になろうと思えば、そして人を助けようと思えば、ここにはいろいろなことができることがある。今そこでロータリーを辞めてどうするんですか。仲間が一気にいなくなってしまいます。人生は仲間といてこそ楽しい人生なんです。でも自分勝手に最後の100mを走っていたら、必ず周りの人がいなくなってしまいます。皆と共に一緒に歩むためには世の中に必要とされる人にならなければいけない。世の中に必要とされる人、人に必要とされるからこそ、周りに皆は集まってくるし、さらに幸せな人生があるんです。最後の100mの走り方は人によって違うかもしれませんが、ここにいる皆さんはものすごく恵まれた位置にいます。それはロータリアンだからです。こんなにたくさんの仲間がいて、週に1回、月に3回ぐらい、皆一緒に必ず会えて、何かしようと思えばいくらでも何でも方法がある。こんな環境の中であなたたちはものすごくいいポジションで最後に100m走るんです。ここで何を見つけるか。人って皆言うんです。年をとってきた。60歳。もう今更と。でも5年前に今更こんなことできないと思ったことを5年経った今、その5年前にしていたら5年分楽しめたんです。人生はもっと深いものになった。だから今更なんていう言葉はないです。ましてや例会に出てくる、出てこれる足がある、皆と会話できる、言葉も喋れる、この状況で今更なんて言葉はない、今からです。今か

ら何をするか。今だって皆さんは何かをしようと思えば必ずできるポジションにいるんです。仲間もたくさんいるし、何かすることが出来る。常に今から何をしようかと考えること、新しいことに挑戦することが大事なんです。そしてそれがロータリアンなんです。父は亡くなる最後の日までロータリアンでした。父の葬式の時には棺の横にロータリーの団旗が立って、たくさんのロータリーの人達が弔いに来てくれました。父はロータリアンで本当に良かったと思います。父が亡くなった時に遺品を整理していると、たくさんの写真が出てきました。ほとんどロータリーの写真でした。ポリオワクチンで世界中をまわりながら子供の口にワクチンを入れている写真。ネパールで子供達と歌を歌いながら手を繋いで踊っている写真。皆、笑顔でいい顔をしていました。本当に父はロータリアンで良かったなと思いました。と同時に、僕は自分の最後の100mをその時にどうするか決めたわけです。僕は最後の100mを父と同じように生きたい。一生ロータリアン

です。最後までロータリアンとして走り通す。そのために僕はこんなに多忙な中、全てを横に置いてガバナーを受けることにしたわけです。皆さん自身も自分の人生に対して思うことはたくさんあると思います。ただ大事なことは、後悔を残さないために、この最後の100mで、今までの300mで後悔したことをしっかりとこの100mでやり切ってゴールテープを切る時に、俺の人生は幸せだったと言えるような人生を歩んでもらいたいと思います。僕はガバナーとして、RI会長がこんなことを言っているとか会員増強をしろとか、そんなことを話しに来たのではなく、皆さんにお伝えしたいのは、皆さんがなぜロータリアンなのか、なぜロータリーなのか、ロータリアンとしての矜持であります。それを皆さんに伝えるために僕は今日ここに来ました。これからの皆さんの100mが皆さんにとって本当に最高の100mを走れるように祈願致しまして、ガバナーアドレスと致します。本日はありがとうございました。



【会長・幹事・役員・地区出向者懇談会】







第365回甘樫会ゴルフコンペ
9月16日(水)
於：オークモントゴルフクラブ



第3269回例会報告書

2026(令和8)年9月27日(日)

—第5組IM(インターシティーミーティング)—

ホストクラブ：あすかRC

於：橿原神宮 神宮会館・養正殿ほか

テーマ：「日本国発祥の地から

『感動』の輪を広げよう！」





国際ロータリー
第 2650 地区
ガバナー
平野洋一氏



ホストクラブ
あすか RC
会長
前垣信也氏



ホストクラブ
あすか RC
IM 実行委員長
吉田勝亮氏



橿原市長
亀田忠彦氏

【IM カンファレンス】

～各クラブ会長による意見交換会～



橿原 RC
中谷昌紀会長



【基調講演】

「歓働」から「感動」へ繋がるバトン
～顧客満足は ALL FOR YOU の精神から～

元全日本空輸客室乗務員
吉永由紀子氏





10月2日（金）に、二組合同での情報集会を開催しました！

於：鮪割烹 吉野

（リーダー：鶴山 学会員、森 範子会員）



【例会ご案内】

10月16日（金）《第2例会》
県下RC親睦ゴルフ大会
ホスト：樫原RC
於：春日台カントリークラブ

10月23日（金）
休会

10月30日（金）《第3例会》
RC・RAC・IAC 合同夜間例会
「樫原RAC・樫原学院高校IAC
クラブ紹介・活動報告」
担当：RA・IA 委員会

11月6日（金）《第1例会》
担当：職業奉仕委員会

11月13日（金）《第2例会》
情報集会発表
担当：会員増強・情報集会委員会

11月20日（金）
休会

【同好会】

書道同好会

10月9日（金）・11月6日（金）・27日（金）
午後2時～ 於：奈良県薬業会館

【RAC 例会】

〔樫原オークホテルにて、午後7時30分～9時〕

10月24日（土）

「アクトの日」（於：奈良コンベンションセンター）

10月30日（金）《第2例会》
RC・RAC・IAC 合同夜間例会

※卓話資料はデータでの提出をお願い致します。

【国際ロータリー第2650地区ガバナー月信】

ガバナー月信は右のQRコードから
ご覧下さい。

最新号から過去の分までご覧頂けます。

下記URLからもご覧頂けます。

<https://rid2650.gr.jp/about/governor/monthly-letter/>

